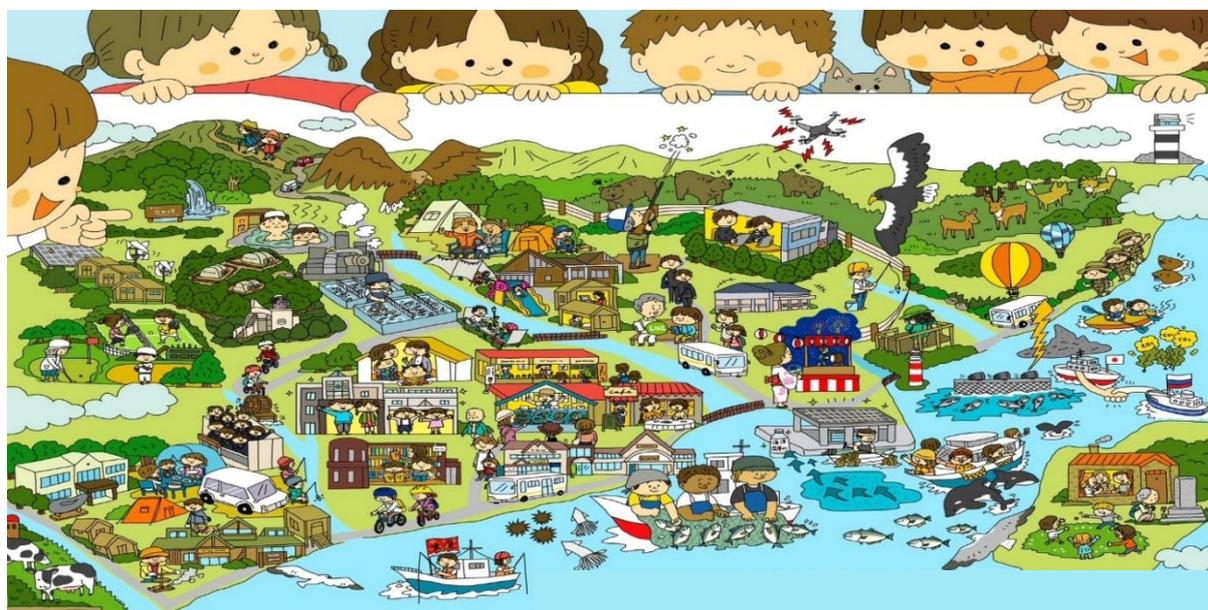


令和7年度 教育行政執行方針

 魚の城下町らうす 



幸せや生きがいを感じる教育を目指して

羅臼町教育委員会

目 次

1. はじめに	1
2. 教育行政に臨む基本姿勢	2
3. 主要施策の推進	
(1) 子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進	3
(2) 学びの機会を保障し、質を高める環境の確立	9
(3) 地域と歩む持続可能な教育の実現	11
4. おわりに	15

令和7年度教育行政執行方針

教育長 石 崎 佳 典

1. はじめに

令和7年羅臼町議会第1回定例会の開催にあたり、教育行政に臨む基本姿勢及び主要な施策について申し上げます。

技術革新やグローバル化、情報技術の進展、人口減少や環境問題など、現代社会はかつてないスピードで変容を遂げ、従来の知識や経験だけでは、未来を予測することが困難な時代を迎えています。

当町においても、令和8年度に小学校と幼稚園がそれぞれ統合することを決定し、教育環境の大きな転換期を迎えることとなります。

このような状況下において、子どもたちには未来を生き抜くために必要な新たな資質と能力が求められています。

不確実な未来に立ち向かい、自ら社会を創造していくことのできる「持続可能な社会の担い手」を育成するために、主体的に学び、考え、行動できる力を育み、子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す、令和の時代に即した教育行政を推進してまいります。

2. 教育行政に臨む基本姿勢

こうした認識のもと、当町における教育行政の執行にあたりましては、羅臼町が目指す教育の基本方針に基づき、SDGs 17の目標を念頭に、「子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進」、「学びの機会を保障し、質を高める環境の確立」、「地域と歩む持続可能な教育の実現」の3つを大きな柱として、施策を推進してまいります。

教育環境の一層の充実を図るためには、地域全体が一体となって、子どもたちの成長を支える仕組みを構築することが重要であります。

町民一人ひとりが幸福感や生きがいを感じることのできる、ウェルビーイングの向上に意を用いながら、学校、家庭、地域との連携のもと、持続可能な地域づくりを支える人材の育成に、取り組んでまいります。

3. 主要施策の推進

(1) 子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進

Education for Sustainable Development

持続可能な開発のための教育



はじめに、「子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育の推進」についてであります。

◆教育環境の充実

全国的な少子化に伴い、当町においても園児・児童数は減少の一途をたどり、令和9年度には春松小学校で複式学級が見込まれます。

一緒に活動する子どもの数が減り、集団の中で多様な経験を積む事が困難になるなど、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化していく中、教育委員会では、「集団の持つ教育力」を重要視し、子どもたちに望ましい教育環境を第一に考え、令和7年度からの新たな「羅臼町立小学校・羅臼町立幼稚園適正配置計画」に基づき、小学校1校・幼稚園1園の統合を進めてまいります。

羅臼小学校の校舎を活用し、幼稚園を併設した新たな校名・園名の「施設一体型幼小連携校」として再編し、幼小中高一貫教育を推進する当町は、幼小連携にとどまらず、これまで以上に校種間連携の充実を図り、子どもたちの成長につながる環境づくりと、誰からも信頼される学校づくりを目指してまいります。

統合に向けた取組として、本年度は幼稚園併設部分の改修実施設計及び児童用トイレの改修工事を実施致します。

また、新たな校名・園名を決定し、校歌・園歌の制作、校章・園章のデザイン募集など、令和8年4月の開校・開園に向け、様々な取組を進めてまいります。

◆幼小中高一貫教育

当町では、すべての幼稚園、小・中学校、高等学校の教職員で構成する羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会において、3歳から18歳までの15年間を見通した一貫教育に取り組んでいます。

自然豊かな知床・羅臼町で育つ園児・児童・生徒が、これからの未来をたくましく生き抜くことに必要な、心豊かで健全な人間形成を図るための取組を展開してまいります。

羅臼高等学校と知床未来中学校入学生の制服につきましては、本年度よりデザインを共通化し、保護者の費用負担軽減に努めるとともに、ジェンダーフリーへの対応を図ってまいります。

◆幼児教育の充実

幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基盤を培う上で大変重要であることから、幼稚園での活動全体を通して、幼稚園教育要領で定める「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」への育みを実現するとともに、「架け橋期のカリキュラム」を小学校と協働で策定し、幼稚園と小学校の円滑な接続に努め、来年度の1園化に向けて、両園園児の交流活動を積極的に取り入れてまいります。

◆学力の向上

幼小中高共通の研究主題である「自立した幼児・児童・生徒の育成」を目指すため、「羅臼町学力向上プラン」に基づき、確かな学力の育成に取り組み、その成果を発表する場として、町内全教職員参加のもと公開授業研究会を開催し、学力の向上に努めてまいります。

羅臼町幼小中高一貫教育推進協議会の学力向上部会においては、

全国学力学習状況調査や標準学力検査の結果を分析し、ICTを取り入れた授業の積極的な実施や、生活習慣の改善に向けた提言を行い、実践を促してまいります。

◆特別支援教育の推進

特別支援教育は、個別の支援計画「こんぱす」の一層の活用を促進するとともに、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を克服あるいは改善するため、適切に支援してまいります。

また、特別支援教育推進のため、専門家を講師として招聘した研修会を開催し、教職員の資質向上を図ってまいります。

◆体力・運動能力の向上

昨年度に実施したコーディネーショントレーニングの効果検証の結果、幼稚園・小学校共に運動に対する興味・関心・意欲と運動能力の向上が認められたことから、本年度も引き続き幼稚園と小学校でコーディネーショントレーニングを実施してまいります。

◆健康教育・食育の充実

園児・児童・生徒が自己の健康や食に関心を持ち、その知識を身に付け、栄養バランスの良い健全な食生活を実践できる力を育むため、養護教諭や栄養教諭と連携した指導を計画的に行ってまいります。

学校給食では、長引く物価高騰の中、質や量を保った継続的な給食提供により、子どもたちが等しく健やかに成長・発達を遂げられるよう、保護者の経済的負担の軽減と子育て支援の一環として、令和7年度より幼稚園児と小・中学校の児童・生徒に提供する給食の無償化を実施致します。

◆ふるさと教育の充実

持続可能な社会の担い手を育む教育として、引き続き「クマ学習」や「生態系学習」、「海洋教育」などの知床学を推進してまいります。

本年度は、小学校1校化に向け、知床学に係る両小学校の統一したカリキュラム編成に取り組んでまいります。

また、3年前に改訂した副読本「知床学」に、脱炭素に向けた取組や、北方領土学習の内容を追加するとともに、他地域の先進校と意見交換や課題協議を行い、「ふるさと教育」の充実に努めてまいります。

◆グローバル人材の育成（高校支援）

羅臼高等学校やP T Aが考えた「生徒や保護者から選ばれる魅力ある高校づくりの取組」として、新入生へのタブレットの贈呈や、修学旅行費用助成、大学入学祝金など、経済的な支援のほか、グローバル人材の育成として海外留学支援等、引き続き英語教育の充実を図ってまいります。

羅臼高等学校の入学者の確保に向けては、「地域みらい留学」を活用し、中学生や保護者と直接対話する「合同説明会」の参加や、実際に足を運んで知床羅臼を感じていただく機会の創出など、令和8年度からの全国公募を目指して、町外の生徒目線による羅臼町の魅力発見と、交流人口・関係人口の拡大に取り組んでまいります。

(2) 学びの機会を保障し、質を高める環境の確立

Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育



次に、「学びの機会を保障し、質を高める環境の確立」についてであります。

◆ ICTの活用推進

ICT教育の一層の充実を図るため、GIGAスクール構想により整備した「1人1台端末」の機器更新を行い、学びの習熟度に合わせたICTの更なる活用を推進してまいります。

また、DXの活用により、教育委員会を含めた校種間連携を確立するため、「教育情報セキュリティポリシー」を策定し、業務の効率化や情報の共有、スピーディーな意思決定など、DXによる教育連携を進めてまいります。

◆ 教職員の資質・能力の向上と働き方改革の推進

教師個々の授業力を高めることが、学力向上に大きく関わること

から、各校のニーズに応じて、先進校の実践を学ぶ取組を実施するとともに、道立教育研究所と連携した研修講座を実施致します。

小・中学校におきましては、北海道教育大学附属釧路義務教育学校と連携した研修を実施し、教師の授業力向上に努めてまいります。

教職員の働き方改革につきましては、令和7年度から9年度までの3年間を取組期間とする「第3期羅臼町アクション・プラン」に基づき、教職員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに、教職人生を豊かにすることで人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるよう、教育委員会と小・中学校が緊密に連携・協力しながら、実効性のある取組を進めてまいります。

(3) 地域と歩む持続可能な教育の実現

Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育



最後に、「地域と歩む持続可能な教育の実現」についてであります。

◆地域と学校の連携・協働の推進

令和8年4月の「1校1園化」に伴い、当町の教育環境は大きな転換期を迎えておりますが、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、学校と地域の連携・協働を図り、地域が一体となって子どもたちを育むことが必要であります。

地域住民が参画する、学校運営協議会の取組をより一層充実させ、「地域とともにある学校」の実現を目指してまいります。

子育てや家庭の教育支援は、関係職員で構成する、子どもの自律・親育ち応援チーム「緒むすび」が主体となり、各種情報を保護者へ提供しながら、事業を展開するとともに、地域や学校との連携をより一層強め、家庭の教育力向上に取り組んでまいります。

◆生涯学習・社会教育の振興

生涯学習、社会教育につきましては、ふるさと学習の推進を重点に、「羅臼町第9次社会教育中期計画」に沿って取り組んでまいります。

「ふるさと少年探険隊」を始めとする少年教育事業や、各種青年・成人教育事業を展開しながら、次代を担う新たな人材の発掘・育成を図り、核となるリーダーの養成に努めてまいります。

各種団体やサークル等には、日頃の活動が継続できるよう、求めに応じた指導助言と、団体が自主・自立するための継続的な支援を行ってまいります。

人口減少や高齢化によりスポーツ人口は減少傾向であり、ニーズも多様化してきておりますが、生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境が必要不可欠であります。「羅臼町スポーツ協会」、「羅臼町スポーツ少年団」、「総合型地域スポーツクラブらいず」と連携し、健康維持と体力づくりの機会創出を図ります。

また、「中学校の部活動地域移行」につきましては、「羅臼町のスポーツ・文化の在り方検討協議会」で引き続き協議を行い、生徒にとって望ましい、持続可能な部活動の地域展開に向け、取組を進めてまいります。

◆安全・安心な教育環境の構築

教育施設は、多くの町民が訪れる場所であり、安全・安心で、快適に利用できる環境が必要であります。

羅臼町教育施設等個別施設計画に基づき、計画的に整備を進めながら長寿命化を図るとともに、関係団体と連携して、利用者の安全対策や防災訓練等を実施し、防災意識を高めてまいります。

◆芸術文化活動の推進

芸術に対する感性や、文化に対する理解を深めるため、羅臼町文化協会等、関係団体とともに、多様な鑑賞機会の拡充や普及活動に取り組んでまいります。

読書振興につきましては、令和7年度から令和10年度までの「第3期羅臼町子どもの読書活動推進計画」に基づき、子どもの成長にあわせ、自主的に読書活動を行うことができるよう、「家読（うちどく）推進事業」や「中・高生の読書活動推進事業」等の取組を進めてまいります。

また、子育て世代や高齢者にも喜ばれるサービスを充実させ、昨年6月にオープンした図書館の利用促進を図ってまいります。

文化財の保護につきましては、郷土資料館を中心に「保護と活用」を進め、新たに策定された「羅臼町アイヌ施策推進地域計画」に基づき、アイヌ文化の基礎資料の作成に努めてまいります。

4. おわりに

以上、令和7年度に取り組む主要な施策を申し上げます。

子どもたちが新しい時代を生き抜くためには、知識だけでなく、自ら考え、行動し、社会に貢献できる主体性と責任感などの資質・能力が求められています。

学校と家庭、地域社会全体で、子どもたちがこれらの資質・能力を育むことができる環境づくりが重要です。

地域の教育は、地域全体で取り組むべき課題であるという認識を、町民の皆様と改めて共有し、社会の一員として地域に積極的に貢献することで、幸福感や充実感を感じながら生活できる、ウェルビーイングを実感できる社会を目指し、学校・家庭・地域をつなぐ教育行政の推進に全力で取り組んでまいります。

議員の皆様はじめ、町民の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます、教育行政執行方針と致します。